

コキジノオゴケ

Cyathophorum hookerianum (Griff.) Mitt. (Syn. *Cyathophorella hookeriana* (Griff.) M.Fleisch.)

【評価理由】

県内ではこれまでに約 15 ヶ所から記録されている。県内では稀産種とはいえないが、愛知県は本種の北限に近い産地と考えられる。愛知県では絶滅危惧Ⅱ類として見守っていく必要がある。

【形態】

和名は、葉をつけた枝の先端が細長く尾状に伸びる様がキジの尾羽根に似るところからつけられた。枝の先端部には線状の多くの無性芽をつける。近畿地方以西に分布するキジノオゴケに比べて、ずっと小形なのでコキジノオゴケと呼ばれる。キジノオゴケは長さ 4～5cm に達するが、コキジノオゴケは 2cm 足らずの大きさである。

【分布の概要】

【県内の分布】

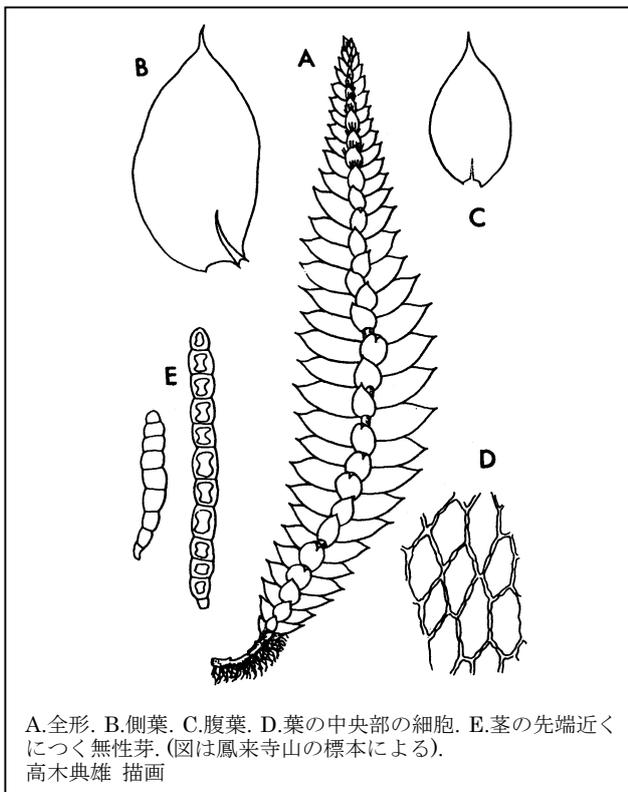
三河部、尾張部にわたり県内約 15 ヶ所で採集されている。

【国内の分布】

本州中部以南、沖縄まで分布する。

【世界の分布】

中国、台湾、フィリピン、シッキムに知られる南方系の種である。



A.全形. B.側葉. C.腹葉. D.葉の中央部の細胞. E.茎の先端近くにつく無性芽. (図は鳳来寺山の標本による).
高木典雄 描画

【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹林内の湿り気のある半陰の岩上に他のコケ植物と混生しながら散生する。純群落を作らないことが多い。

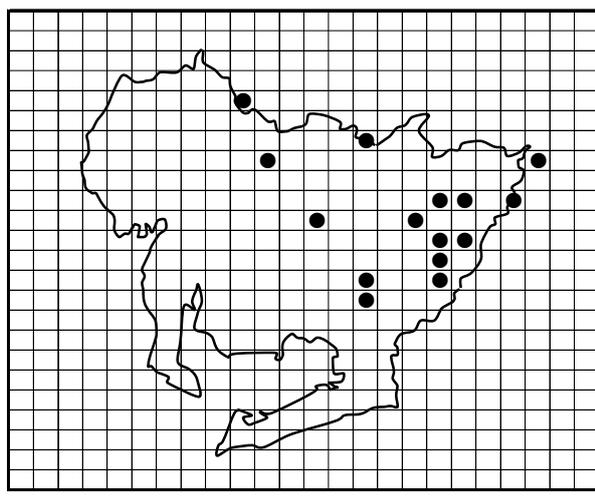
【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内では現在約 15 ヶ所の生育地が記録されているが、中でも多産地の鳳来寺山での観察では生育量の減少傾向がみられる。林内環境の乾燥化が原因ではないかと考えられる。

【保全上の留意点】

樹林内の半陰地で湿り気のある岩面に生育する種であるため、林内環境の変化に左右されることが大きいと思われる。周辺の樹木の伐採や土木工事などにあたっては、環境への十分な配慮が必要である。

県内分布図



【特記事項】

本州中部以南、東南アジアまで分布する南方系の種で、愛知県は本種の分布の北限に近い産地と考えられる。愛知県のセン類フロラの性格を論ずる際の資料として重要である。

【関連文献】

高木典雄, 1996. 蘚苔植物. 設楽町誌自然本文編, pp.346-368. 設楽町.